

遐兮往古無誹諧宗匠者
唯有連詞宗匠添削誹諧
而已自慶長中花咲翁蒙
誹林一道之宗匠免許以
來海內靡然爲之誹林權



〇 慶上

〇 一

興矣自是以來其源洪レ其流蕩レ逢レ此道以爲宗
匪者如潮流涌如流漫連者
幽玄ヤカニ誹者寬濶捨其屈樂
其伸一人之心追レ萬人而
移者時勢使レ之然耳遂有
宗匪出連レ而入誹者混レ

淡レ不可辯識焉倘有東
都下ツタリ黜者影其ヲヒミシク澹ニ區ニ不
分明矣因是遠トクニ以古書爲
力中コノ躡ウツクニツテ踞老誹之前拂レ其
鼻上之塵追キハ任其所知シツタル覺
各タクニ逞ニ我持カ量次第ク猶ニ
蜘蛛之サカニ縲カニ糸綾錦之分カ縷イトスチ

以爲此書題號云尔
 享保^{七年}壬子夏日武阳江都
 神田散人崔下菴沾凉叙

此書ヲ編十六年目延享四年十月十日及六十四淺草誓願寺葬



綴錦卷之上

沾凉解

〇元來連歌と俳諧ハ別くの物にあつたと古々今
 連歌今の俳諧混合一々其差別ハ一建治舊式
 應安新式より連歌の法より海りみたりなり
 云々とす一々ぬ半々俳諧の俗言は海りえと云
 狂連歌と云ハ是れは俳諧と云ハ俳諧の
 之字と云ハ俳諧と云ハ俳諧連歌と云ハ俳諧
 真連歌 今連歌 狂連歌 今俳諧
 〇俳諧俳諧乃之字ありて俳諧去より海り
 之れより故品と云ハ雲沙抄九品乃うら

誹ハ 甫尾ノ切ハイノ音ニ一誹ノ字ト同也
又定一ニ音あり

俳ハ 説文俳戲也从人非声亦牌也

徐曰今言俳優是也漢書談笑の類俳優と

ありて東方朔或曰古の曾呂利ありて

之如俳優なり 優誨と云人の秦の侶侏儒

郭舎ハ武帝乃侶し 俳倡トツキニ共ニ
日本ニ云伽ノ者ナリ 之は

質と云く亦名利と云くは俳に

俳優俳優し又亦況利口ある者の如く

之を大なる言葉と云ては俳

誹ハ一ニ是俳誹なり

誹ハ 説文俳誹也从言非声或省作非前量

錯傳非謗不治 ハイの音ありては

多ありて人々各ハイの声を通りて

俳誹の事ありて戲ては俳誹の類也

之れと音と云はくものといふの比也

ふと云はく古今集拾遺集にも俳の字と

ありては負法稀也俳の字と云はく

ては俳の字と云はく俳の字と云はく

諧ハ 羽皆切説文諧詒也从言皆聲廣

韻和也合也調也偶也

○連歌舊式目 人皇九十代後宇多院御宇建治三年
鎌倉友谷為相卿の作 是ヲ大道ト云

○同新式目 人皇九十九代後光嚴院應安五年
二条院同後香光園殿下。書加玉ヲ是ヲ小道ト云

○新式追加 人皇百三代後花園院享徳元年
一条殿下。同白蓋良云時の宗通に統一書加玉ヲ

○新式今案 人皇百五代後柏原院文龜元年
勅ヲ傳テ道遙院殿下宗隆云合辨一書加玉ヲ

○北野連歌出葉元祖ハ梵灯菴也 未社煙宮北身云
俳諧根元の書ハ新式ト大規模ニ行テ松永貞徳
御筆ト稱シ其後野ノ口立圃のト云ハ松永貞徳

乃毛順子北村法印の撰本也

○連誹ハ神ハ天満宮ト崇ビ事ハ北野宮老人ト化

二條殿下ハ亦也也ハ立水外水の書ト云梵灯菴至
ト致ス所ハ一ト云ハト云ハ立水の出葉ト

梵灯ト云ハ文傳トシ禪言也教葉の書ハ神殿ハ佛
連歌ハ神辨ハ立水外水ト是天満宮法御雙眼ト云

ト云ハ流瀉ハ連歌同辨ナ道ト云ハ天満宮ト崇
性古連歌ハ神ハ日本武尊ト崇一トシ

○應安ノ頃普光園殿下より侍云ハ宗通ト云ハ
大比賣書秘文ト傳新在家ハト云ハ代ハ連
歌ハ龜鏡ト云ハ

○應永乃頃江州石山寺淨會 二條殿下普光園殿

月ハ山河を一金の信の海 良基公

山浪をびる 兼も文之様 周阿

松一本あゝぬ 扇葉のあゝるん 侍公

此時信公始て宗道とある一座の好まハ 救済 善阿 光順 信照 良阿 等

○慶長の頃清水金閣殿淨會 九條殿下号致山公

死に於乃を流ん 新米の如 魚孝公

老ハ 桑子ひくもぬる 袖 貞徳

たつとらふ裾ぬく 袴子為すく 玄旨

曼延用

或説慶長六年 貞徳四十六年 此時貞徳始て宗道とある一座の好ま 宗頼 宗徳 信巴 水種 等

山河を腰にしるる 扇の如 賢澄

之後の宗徳の如くしるる折とて 池子望むをうらん

近衛殿下号龍出

宗徳、とてしるる 修鬼つる 前久公

音んとしれと 暮ハ 次 宗徳

智くして山河を流ん 花香く 玄旨

有明を侍 月ハ 主人 貞徳

御菓子のおこを 馬九亞相

報く乃能なり 涼ハ 枇杷の枝 光廣御

太閤朝鮮出陣の時

可きらのその身はうて 不くハ 法印玄旨

こめもや汁はほろこめ出き若
五月雨の峯のまじり勢谷の水
秋こて地今いし田のい絲とて和
冬に粒素良のちひく胡茶外
宗祇

宗祇奥の序の守武出たありし
ちもも信持のくちをこ

お花友を尺也をる也もあふ月
びりりーいさのあひほりて
宗祇

あふりひの白 ちあふりー
牡丹花

まらる花雨の望は秋はも
まらる花のあひぢらして森ぬま
まらる花のあひぢらして森ぬま
仙吟

あふりひの白 ちあふりー
源中 元政

ひらりたの菊の之と也南禅寺
照乗

よりこまよまらる花のい
宗鑑

とららりて花よまらる花根外
宗粮

梅はくお香なしく写と筆もうら
紹巴

ゆき雪をあらはにゆるあゆ下込
高野木食 紹純

ちり雪あけくもる花ひぶしく
肖拍子 楚仙大

那へや本乃丸はふの青と株
小埴 慶友

雪折、引切竹や胡茶の湯
羅山 宗甫

さそい、いそのゆのい具足餅
道春

世あふりひの白 ちあふりー
花を記

○誹諧宗匠権輿

雪月花一度に見るるくつさか

貞徳

○^京貞門七誹仙

海棠花いれさやまのふかしの花
老つまも茶はも成りし人乃道
大上戸かこしにある、けしき
神堀の絶、折葉のほろろ
うたゝぬまのあまのほろろ
らう節をよらそやあふ系はく
花生、乃水多たもあそくそけ

立圃
維舟
西武
令徳
貞室
季吟
梅盛

○江戸五誹哲

何と見ても雪はしる物
れホー蚕て福道ぬ伽子炭火外
くあー得達如人丸泥中
上をトへえいそふ乃福見
去とんと空やゆけのら

徳元
未得
舌打
加友
ト粮

○万治寛文頃

既寒足移つ色むや雪乃道
きんく印撰弁さあめ
川音のいふまや屋敷船
意菊やあふたれ時の酒在

^{蝶子}貞宣
^{松永}立志
未琢
ト入

身くびく印のめまゝの子月所

調和

元祿の^影のまじり^影も履もあはれ

同

花の^影は^影ら^影きた^影ら^影る^影も^影程^影単

不卜

そ^影の^影あ^影れ^影た^影れ^影な^影り^影て^影い^影ら^影る

同

よ^影み^影の^影を^影た^影る^影も^影あ^影ら^影る^影時^影の^影音

景俊

ん^影あ^影る^影ハ^影花^影の^影ま^影ん^影だ^影ん^影や^影寺^影此^影花

尊明

日^影と^影り^影あ^影ら^影る^影や^影之^影ケ^影日

友徳

宿^影の^影た^影ら^影ら^影た^影ら^影と^影響^影の^影音

水元

待^影の^影ま^影じ^影た^影る^影人^影の^影あ^影ら^影花^影の^影あ

清春

じ^影ま^影ら^影く^影じ^影ま^影ら^影に^影吟^影ら^影る^影青^影山^影林

北白の栗本雪朝子下物の源字はあり

吟市

雪^影の^影ま^影じ^影ら^影る^影人^影の^影あ^影ら^影花^影の^影あ

一貞

曾^影の^影あ^影ら^影る^影人^影の^影あ^影ら^影花^影の^影あ

松意

花^影を^影あ^影ら^影る^影人^影の^影あ^影ら^影花^影の^影あ

幽山

○元祿始ヨリ享保年中

湖春

名^影の^影あ^影ら^影る^影人^影の^影あ^影ら^影花^影の^影あ

停勢に清て はんくまあり

何^影の^影あ^影ら^影る^影人^影の^影あ^影ら^影花^影の^影あ

芭蕉

西^影の^影あ^影ら^影る^影人^影の^影あ^影ら^影花^影の^影あ

素堂

春^影の^影あ^影ら^影る^影人^影の^影あ^影ら^影花^影の^影あ

似春

い^影の^影あ^影ら^影る^影人^影の^影あ^影ら^影花^影の^影あ

露言

此字今くは源西朝中川文ある通今嘉平のひもあり

はく一を撰を壘色乃技折外

兼豊

雅なりて舟なりしる五月毎

山夕

年可申く身出るといれ時毎外

一品

まの言や青ことく地芝乃隅

立志

花出らるる子とあるるす夫婦外

其角

竹の子や児の葉くまのうしき

嵐雪

多し海しきねも暇るや去ら雨

挑翁

炭と福と物さへいさく人心

一蜂

包ちとてあも地ゆるるとす地

無倫

水と地と金とゆく物や夕涼

沾徳

抽は花のよの才一の其白針

介我

小男のくくけねしや下とをら

秀和

家へけつとねもあはせかす杭

東潮

くく一回やみくらの鹿のくく濁

遠水

入お乃隣きくつ中ね祀もくぬ

正友

我形や一合とくの海井戸中

神叔

きまに青と茶もありゆりぬ

素秋

ふまの尾と隙はく清み外

未陌

川筋やまき刻くくしとせしむ

常陽

碓川綱そのまへ水く舟

立嘯

換石を雪のまへつる去日外

好柳

まかり乃笠のまへこく其髪外

松水

新ひ花よりとくく 庭の活る如 盤谷

志く魚乃戸田のそらや郭云 子英

此句真別須賀川等初撰一本戸は今より心
頃いふなるる英如入せりしにおしては
那より英とるるいふしはれ和歌方の會座
おのゝ香歌すそのら等初撰書をさして
今いふるも人も我も亡して書書の
孝の徳ゆせいふるふへいとありし
その二心の序よりありおしてふらの
陣より等初撰風雅を今かくしてけを指し

喜下じいにてはくなく 兼の筆 立志

雲如雪花をあつらふる 和英

袖下のあつらふる 浮生

新ひにやうく 中く 沙下 拳白

死ぬまゝ 生れまゝ 此去 蝶こゝ息 二葉

此句歳且の英初撰書しはれ初撰書しはれ

庭根をさく志の心 堤亭

くすもみも 柳子のゆたたり 斧鉞

葉下りて 花つるなるん 秋色

扇のうら子に 髪なす 女 七ひ女

千一 鯛の物めると 旬 佳風

見とや目を志い 前 青娥

何を志 船と志 井谷

右ハ介見わすさるいふとハ 始

○寛永頃京大坂宗匠大概

齒采あきく浦高なるは涙の雪

本多あきく縁や綴立ほくさ

廿日の子増えぬ三七こねしる星

七賢の拙き人花や一敷椿

まじりし雪女もや白く入り

昔人くたふは月もさゆい

三夕もまじりて平らなるはきり

松の枝梢あき光をくさあり

權花一ふつと志海あるやう

綿のいもみたるはくせく

安靜

一雪

定重

宗伴

道節

正由

元隣

宗因

空存

休甫

ひさしの一口也や

此のよく奈良のよき

歌のあきくせいの

ゆき乃系をある

口也

春倫

道寸

成安

連歌花下 新在家代

侍公 宗匠権典トス 慶安頃普光園殿始而宗匠賜号

應永誤

心敬 僧都

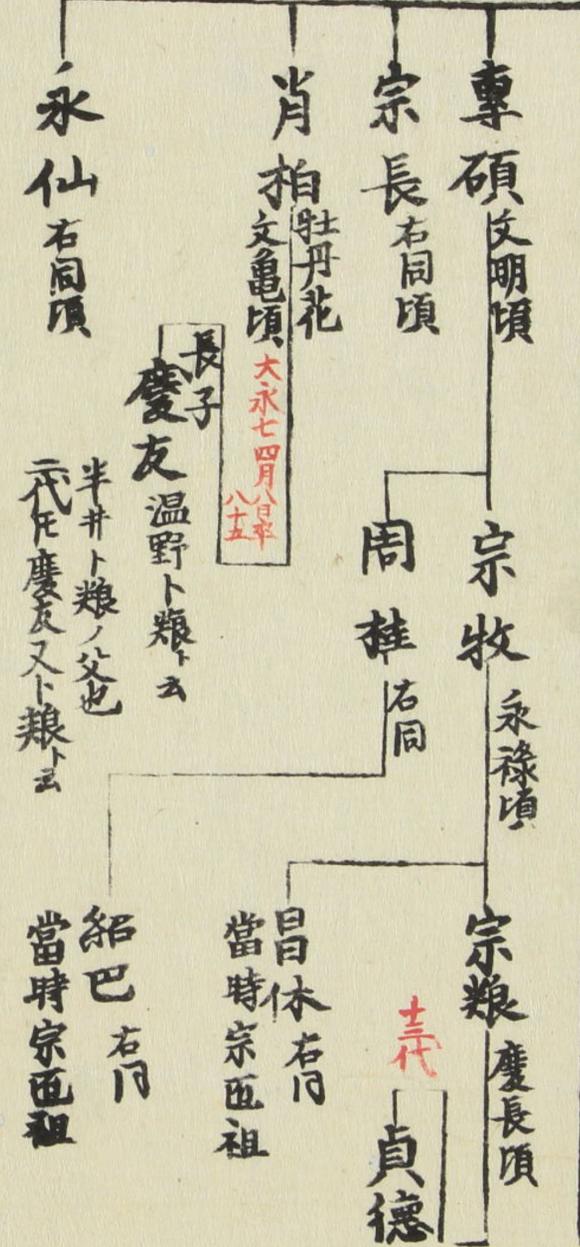
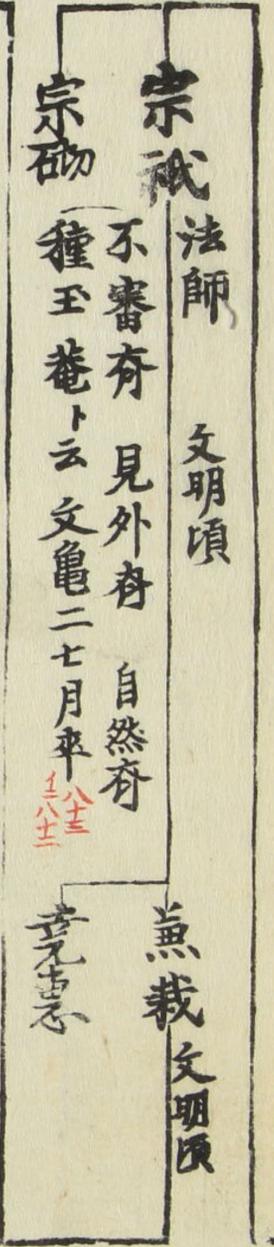
專順

智温 塔川親有門 應永頃

在外 宗僧 杉原加賀守

能阿 法師 專順續

行助 法師



誹道大五譜 他國大略

新在家侍公十代宗匠宗粮門

貞德

元龜三壬申生
 松永道遙軒長頭丸 京都人
 吟花廊 号卷咲翁
 撰州高槻城主松永霜臺嫡孫
 慈父松永永種
 通称吉右衛門 剃髪三松友又遊
 悲母下冷泉妙壽院御妹 元龜二生推名勝熊
 勝熊ノ声ヲカリテ道遊軒ト云説アリ
 哥道ハ法印玄旨ノ門弟
 慶長三戌八月 廿七
 近衛殿下龍山公 九條殿下玳山公ヨリ法印玄旨
 善文祿元年三月
 法橋宗粮法眼紹巴等二仰有テ誹諧一道ノ
 宗匠ヲ免許 俳諧式三定公是汝子祖ト云學校
 兼應二癸巳十一月十五日卒 八十三 晚年復修三東
 明心居士ト称ス
 有墳鳥羽實相寺

編集
 和歌宝珠二十卷
 歌林樺楸二十八卷

戴恩記 御筆 紅梅子白 浚川油粕

長子 惺窩門人 京堀川住 儒道

昌三

松永 貞選年字豊三

一切經八千紙書 尺五堂講習堂 明曆丁酉六月言卒 六十六 連綿

長子 昌易

春秋館 儒道

季子 永三

懷德堂 儒道

誹門人

道春

林家儒宗 羅山子

御儒學所

道春昌三兩人ヲ貞德道而 入門惺窩先生

羅山子長男

春齋

御儒學 本朝通鑑書

御曲某 三竹 野間

順菴 木下

隨有 薄川

省菴 安藤

由的 守都宮

哥道門人

盤齋 加藤

磐 編 三部抄増註

一華堂

長好 廣沢

三之

儒宗家

貞門七誹仙

一流祖

立圃

野々口親重入道 号松翁

京

編集

寛文頃平亨年七十有余

生 九社 拜 月 日 七 十

その心学 法万景 初月子白
あしき心 吟了心 精進子白
其弟 河舟 みのみ
万句 万句 小所なり
忍月 忍月 忍月
約よ世 大空 空つて
江戸家 江戸家 江戸家
報法集 報法集 報法集
老翁子白 老翁子白 老翁子白

一流祖

維舟

松江重頼入道

京

右同頃平行年七十四

延宝八 月 廿九 日

京

辛和

江崎

編 三所 三所 三所

和羊

常辰 年七

重栄 竹山

編 短使集 以下略之

京

重方

望月

編集

毛吹草
浮世長刀
乳母
ひよりの
太子草
懐子
大井川
河世世
濁地河
佐兵中

的傳

垂花下

安原正章入道

嫡子

元次安原

弘永

鬼貫

言永

平泉 後醍醐
五十三日百四十七
三十三日百四十七
京 堀西
以下略

京 貞室

編集

元和頃平 行年六十四
延寶二年七月七日没

玉海集

河續

此母追名

而句自注

氷室言

独吟子句

「乾重次作命

片言

五条百句

可頼

音地

貞恕

惠佐

重次

以下略

京 西武

又 的傳

哥道二華堂門第十
山本無外斬入道

延宝頃平 行年七十三

正在小原

編集

鷹筑波 くりり
ありくる
波金袋 河續
何と系
はらまき
とらぬか

京 正伯

嶋本

京 隨流

松月菴

編永代紀

以下略

御歌学所

五 季吟

北村拾穂軒再昌院法印

本土江列北村

住京松原室町、東新玉津島後、被 召出

編集

花千句

宝永二酉六月

ふの井

むらさき

昨夜月夜

いふこ

朝大流波

法皇独吟

有墳池、八夕

十金集

世金集

ふふ合

正慶寺

哥出

一万集按 八代集按 源氏物按
枕草子按 つまじく按 世物按
大和物按 百人草按 其外品

京 元隣

山岳

京 可全

大村

京 則常

伊豆

湖春 父季吟同時被召出
元祿十丁巳正月十日卒

正立 住新玉津島

御歌学所

六 人之德 鷄冠井 又良徳下出
寛文頃 中羊ノ卒

崑山集 非階四十余年
土壘集 親灸

七 梅盛 高瀬他心子
元祿頃卒 老羊

口子終子 ありき 古後
茂徳集 山ノ石 山下
後子集 心仙 本玉集
後子集 後子集 早徳集

京 良保

京 友三 奥西

大坂 如貞 井口

京 今富 鷄冠井
尾州 跡目

以下略 友我

京 安重 内海

日 倫員 藤村

日 道槃 佐木

日 信徳 伊東
元祿七
以下略

京 一 雪 掠梨柳風菴
延宝頃卒 六

編集 裾屑 茶抄所 雨わらるる
粉搦 足さぬ 少く心也
作若く 小袖 云ね成

京 重友

尾州 和

以下略

京 安靜 萩野似空軒

右同頃 延宝三
編輯 鄙談集 しの細布

京 俊秀

日 宗英

日 重隆

日 似船 富尾
芦月菴

偏 苗代水

貞門 馬淵宗畔 末吉道節
端氏定重 宮川正由
是等の門流武江より 依ぬ

江都宗匠

●五哲

安靜門

一 德元 齊藤帆亭

寬永頃

住馬喰町二丁目

編集

初学抄

正保 於若洲卒

二 未得

石田乾堂

編

五心集

住神田鍋下町持屋鋪

德友 元貞

糧

和英 壺枕舟

享保三酉二月四日卒 年有餘 谷下卒

水元

万治頃

清春

昌雲軒

右月頃

編 安山集 麻呂集 千白集

長男 未琢

石田良堂

居父ノ住所 在哥ノ達人ナリ

編

一ノ心ノ孝

天和二戌三月廿日卒 享年七十有餘

墳父同所

隆芳院未琢居士

編 意深 菊川卜改

入門吉田意安醫道

調和

岸本壺瓢軒

号土齋

編

是ノ草

住吳服町

土齋 減後高才和葉

取立

正徳五乙未十月十七日卒

享年八十有餘

有墳筑地門跡地中 調和院道鑑士

埋木

住傳馬丁

好柳

壺井

住京橋

現 風堂

山崎月嘯軒

住神田

現 艷士

横田壺谷軒

編集 分外集

常陽

木戸

住京橋

後成 振津社職 享保年中卒

門人
未陌 榎田氏
元祿頃 任中橋邊

不卜 岡村一柳軒
任堀江町

編 法き系

元祿四庚未四月九日卒
有平河山法恩寺墳

里風 叙氏
任芝三嶋丁

現 **和推** 堀尾敲軒堂

先師点印傳松曉林
和葉自和葉又
和推附屬又

息 **和全** 堀尾
未宗匠

現 **不角** 立羽松月堂 号千翁 任八坂

編集 七十五版焼失 其後 百人一首三卷
法き系 卷 同十卷 同土卷 母息集
信り 本名のあり

現 二男 **不角** 立羽安月堂
編 立羽松月堂
現 **壽角** 立羽松月堂
一雪門 服部氏
編 貞座の心記

三 **玄札** 高島氏
醫 寛永頃 任本町四丁目

編 十程千勺

辣心

山夕 樋口

四 **加友** 荒木泰菴
醫 寛文頃 任兩替町

編 法き系
日頃勢州松坂より名あり
是は春陽軒加友と云

現 **山夕** 桃井鳴蛙井
始仙水ト云

任久保町

現 **仙水** 桃井
未宗匠

仙水 山夕 辣心 不角 壽角 玄札 加友

友德

正友

勢州杉木勾當望一第
住芝源助橋
延宝頃諺林誹諧流布時
合躰田代松意而宗因荷擔

一峰

河曲田泉舍
号葛仙翁
住神田

言水

池西氏

又季吟門云後住京
云維舟門

一

山州伏見
菊岡氏

一

梅原氏

寬文頃

魚豐

門田氏法橋
住久保町

元祿初頃

牡丹花孫

五 卜 粮

半井法眼

御醫 始慶友卜云

父半井慶友是温野卜粮卜云
拜領屋鋪鉄炮洲明石町裏
寬文頃 在哥、名人
父子正慶友又卜粮卜云

男

卜 仙

半井醫
未葉有子今

中興一流祖

挑音

住新大橋
松尾天、軒釣月堂
号芭蕉翁

本土伊賀上野、士松尾藤七郎
菊岡隨性軒和幻尊而入、參
門正保元甲申生元祿七甲戌
十月十二日於大坂卒春秋五十一
葬江州粟津義仲寺
諸国墳

有江戸深川長慶寺
有伊賀上野万福寺
有京東山双林寺
有大坂道頓堀千日寺
有美濃大垣正覺寺
有肥前長崎南京寺
有奥州高野城跡碑

今德門

一品

芳實冥靈堂
号崑山翁

元信德門 始、京都
住兩替町
今德翁、崑山、印附屬之
在世用之此印行方不知
宝永四、四月卒
年六十有余

編

万水入海
丁卯集
八宗懸隔

斧鉞

藤本羽仙存
住石町

享保初頃卒

有真州素折短尺塚

編集

蕉翁のうたをひき
さるゝの ねの細た
るゝ八日 二十奇仙
二百教

素堂

山口今日菴

始云信章又來而云云

享保二申八月十五日卒

歳七十五

住本所

有墳谷中感應寺

似春

小西氏

住本町

後成総州行徳社職

編 山之山子

貞室門

蝶子

貞宜 初貞頼

万治頃 住銀塔橋

編

思出子 物志子

朋友集 たらき

松茸さく いづま

江戸八百教 河の友

正徳享保頃本御菊塔

同名アリ此門流ニアラス

古人ノ名ヲカリタルノミ

現

貞陸

住品川

佐保介我ノ従弟
今住川越

編

二葉子

學明

服部氏

住本所

不入

重頼門

幽山

高野丁ノ軒

住本町河岸

元祿頃藤堂任只公ニ仕テ

改ニ竹内爲入

於勢州久居卒老羊

立圃門

立志

高井松樂軒

住本町四目

編 寛永頃 樗木集

編

立宜

高井松雨軒
若羊而卒

編

秀堂

大野

未宗也

秀和

大野炭瓢齋

号相水翁

正徳四申午八月卒

吟市

秋氏

大徳院弟子

安住院尊海和尚

本土江州

屋銀塘

天和二戌於江州卒

高弟又津見吟市受續

表徳街直泰非点者

魚倫

志村拾葉軒

本土越後

任大錫町

享保八卯二月廿九日卒
有墳念海山青松寺

法名天寶現壽居士 行年六十三

現 倫里 且立德葉軒 住石町

編 現 來川 且立 始古鈴

神叔 音木氏 神道 住石町

浮生 北藤銀塘居 遊樓羅園 住銀町

編 原謙倫 水秤集 多跡話

享保三丁酉正月卒四十六春 有墳小日向金剛寺 芭蕉之系

其角 室井室晋奇 号晋子 住茅場町

編 彩山歌、夕中分、月續、大寺歌、句兄弟、靈集、あまの昔、歌林子、あつ、難波集、尾尾形、あまの合、三上、枯尾卷、うしろ系

室永四丙亥二月廿九日卒 五十五 有墳二本根上行寺 法花宗 有墳深川長慶寺 門人之

嵐雪 服奇雪中菴

兼應三甲午生湯島雅名久米助ト云 天神宮銅鳥井二其名アリト云 編 しの袋、あまの 住濱町 室永四丙亥十月十三日卒 法花宗 葬野郎常驗寺

二男 立志 高井和階堂 始立詠ト云

編 宝永元甲申八月卒 高林院立志日乘 甲勢松坂加友明

子英 岩本氏 後止点者 住 始浅草 正徳ノ頃卒 後卒不

編 起波 清水独安菴 住堺町

現 貞佐 来岡桑之畔 始平沙ト云 住本町 享保中

編 秋色 女 其角点印附属 居小網町 享保十四月十九日没

堤亭 下邑氏 居佳吉町

編 一漁 鶴海釣月堂 居浅草

編 傘車 鶴海 未宗匠

現 享保三丙二月十日卒 有墳深川法禪寺

此集委由大尾彦芳允
經屋杉風ヲ渡スヲイカシ
深川芭蕉庵ヲ翁ニ附
屬上朝夕助セシ由人
知所ナリ然ラテ涼涼執
心ニ不似合一失ト云キ惜美

有墳深川長慶寺の火之

雪中菴不自玄華居士
杉風 採茶菴 享保七年育書漫

その女 女 おののこ

本土勢州山田渡會氏女十リ

依テ忌法体ヲ成ニ縫風頭ト

編 弟のちり 其角門ト云 享保土四朔
有深川美巖念佛堂墳

惟中妻 住深川

挑翁 天野太自堂吳竹軒
始挑隣ト云

本土伊賀上野芭蕉翁

古朋友十リ 居神田

編 九日 享保巴亥十一月卒七十有餘

葬浅中新光明寺

現 挑翁 瀬尾大練舎

元永乃和門 始杜捨ト云

編 雨あがり 冬の日

ひのさき ころもり

現 陽秋 瀬尾 未宗五

現 介我 佐保草雨亭

始普船ト云

享保三戌六月十八日歳六十七

有墳浅中本願寺

現 穀我 佐保

編 未宗五

現 峯白 草壁氏

編 久祿ノ頃卒

現 潭北 常盤百花莊

本土野州那須

編 及古き

その月日

そのふ 民衆分量記

今量夜話

現 湖十 曾 水者菴

其角門人也先師点印

秋色ヨリ附屬ス依テ

此系二譜ス

後江州林里下風此時代始カ

現 永機 湖十養子

曾

老翁 母木者菴 元享三年七月三歳

後前肝去華合中宗林寺

現 立志 心保和散才

始春水又立詠

編 雪の果 危のまゝ

一厥中

享保九甲辰十一月廿日

有浅中常福寺墳

立志二代

点印ハ野州宇都宮住

音山立鴨附屬

現 水國 雲津鶴隣ト

始晴星ト云

今沾洲門也 住搦所

雖然立圃五代相續ノ

宗匠十キニヨツテ系ハ譜茲

周竹八雪中春世系
不継吏登六嵐雪門
人上七印多周竹ヨリ附
属スル故系ヲツクヤ
後世寸松齋ヲ編ス
草石ト云リ寛政ヨリ
文化年中ナリ文政度
三又号各共編者
有リ天保年中ニ至現
オシ

内藤左京大夫從四位義泰
奥州磐城平城主嫡子能登
守麻家義孝ト云其子右京
亮義相其子備後守政樹
迄居延享四日向延岡屋城
曆七万石屋敷虎内内
義英ハ早世又因云房能登
守義孝家督又

東潮

和田堵中子
編 号一甫
住西河岸
元祿ノス工二卒

素秋

熊谷氏
住橋町

同竹

清水才松齋
号粥翁
住田前所

白峰

三田風琴子
住神田

當國

稀川了兼亭
住神田

丹水

住深川
前句判者三同名アリ

吏登

梅井雪中菴
始李峴
住深川

編

嵐雪点印周竹ヨリ附属
和竹声 或同珍

編

今更 步田十存菴
始雁行
住神田

陰威

今村
始机山
住麴町

舞山

帶金
始茂店
住

風虎公

内藤左京亮義泰公御夏
非点者
御集 水のめい
伝きのうき
山

露沾公

内藤下野守義英公御夏
非点者
御集 有負
遊園堂傍池亭

露沾公門

福田風琴子
始調也ト云

露言

元調和門
始調也ト云
住南傳馬町

御表徳ノ兩字一字宛

露言沾徳二下

元祿四未四月十日卒六十有餘

言格

福田氏
醫

露言

白堂

遠水

樋口氏
住

上

廿三

露沾公門

水間合歡堂

沾德

始沾葉卜云

編

任中橋

一子出棠集

竹花千白 月鏡

享保十一年六月廿日卒有年

有墳平河山法恩寺本理院了德日到

現 破笠

今止点者

現 勢吉

水間 如羊未宗匠

露沾公門

菊岡崔下菴南仙翁

現 布仙

菊岡暗行舍 未宗匠

現 沾涼

始南仙卜云

任神田

編

百福壽

月鏡 百花実

秘虫の介

日本及中仍程記 日光名詠志 江戸無子温故志

享保七年

現 梅五

菊岡 未宗匠

露沾公門

赤萩

現 露牛

始花爰卜云

元湖十明

現

沾洲

貴志行翰存

始民丁卜云

編

現 青條 貴志 未宗匠

青娥

篤田六嶮仙

住茅場町

元東潮門 享保十五酉卒

現 音峨

前田二柳菴

始又梁卜云 後泰室卜改

住菜研堀

現

成屋

長坂音苔礎

始仙拾卜云

現 耳谷

長島氏

享保十三平

現 百洲

江川掬山甫

始尹督卜云

現 乾什

岩本千歳兒

始吳丈卜云

現

壺月

石川

現

常仙

志村孤鶴汀

現 沾山

内田桂坊

住淺草

治徳ノ門派後世
江戸坐判者
諸書見二

貞徳 宗因 露沾
維舟 宗因 露沾
上養

治涼 延享四月十日
六古浅中誓願寺
葬

紹純名連哥師系不見
一覽曰半井上養門人
有

紹純門

宗因

元連歌師

延室手

中下武江而暫居弘談林一流

宗春

大坂

玖也

杉山

春倫

濱田

其外略

石のり百韻 友の集 独の集 しのあゝ
其のよの百韻 人の作 十舎集 くのあゝ

大坂 西鶴

二万堂 井原氏 松壽軒

一日二万三千句独吟ソヨリ二万翁トモ云

元禄六酉秋年歳五十二

編 大矢叔 とうり右谷 朋骨 叔中 石車

松意

田代川草子談林軒

松水

杉本氏

編 虎溪集 殆大坂 後江戸北中町居

放龜戸天神宮回廊 豈着誹諧之條起

盤谷

志水泉宇

現

尾谷

千足梅堂

住願戸物町

北蓮塘 住神田

大坂 宗因門上

推本舊德翁

佳風

豊島有紀堂 儒道

始才尾

前住江戸 元文三年没八十三

大坂ノ門人略

享保十二未上二月卒歳四十九 有墳谷中大雄寺

現 逸志

笠家半扇菴

住浅草

伊勢真光寺昌英門

景俊

一万治ノ頃 此末門不知

貞徳正統松永尺山門

現 貞山

相淵昔九舎湖月亭

現 貞賀

姉子

一淵堂

編 ひはら 江戸名所集

○古貴人 大略

日も暮ぬる舟に好も世七夕

岩城郡主

風虎子

死もくもまればあう世も炭俵

父居郡主

任口子

明石丸の舟にたりて浦あそぶのこゝろ

明石郡主

松葉子

舟乃おちしほのくやわし丸

田原郡主

風隣子

むし整ひ顔向をておのこを家計

あまのこのこころよかこころさうくさうくこころなまぬとも

○古人古老 大略 古風

白炭や焼ぬむしーの雪の枝

忠知

長き水を森てあがしむるゆへ

末学

水よりくおとがし洗むこいとも

詠笑軒

行吟

あゝ葉よりあゝあゝあゝ射り籠

狩野氏

常信

○延宝年中大坂宗園東都にやう流林流流の流流

起きし川とを家よ流林の末あり極るれ 宗園

此より極るれ身流林十百款巻取しと雨

いさ折る人中央足きんふさう

雪柴

くけらるやちよそそ天下の下落

小沢氏

尺

はくふらむじいさみらあををり

調和門三輪氏

鉄

世介いそのまよゆりてぬえ

○元禄年中い正月作は飯其頃より享保すく大葉

調和門

金獅

結きしこのまのまや教後筋

日

和葉

石ふあゝ思ふの雨をまうとや

日

幽蘭

もいぬえか子いっく着の筆 芭蕉門 嵐蘭
 杉子書行のいしなる一會 日 在色
 麦を折し海子なるその秋を 日 秋風
 神のまのいしりりや 日 楓子
 蟹もいそよましく神の治 日 仙花
 勤さなるは岩持もや星乃 日 曾良
 さよませし 日 岩泉
 そま 日 池田
 箕子 日 利牛
 物言の権の 日 孤屋
 いのす 日 干竿
 舞門歌 専吟

白ゆ 一品門 風曝
 タ 日 虚堂
 太信 日 琴藏
 勅学の 日 銀葉
 その 日 岩翁
 舟の 日 朝典
 子 日 横儿
 幕 日 序合
 馬の 日 古礎
 中 日 栢十
 尾 日 氷花

亭々の夜さ〜〜あつては〜

同雷堂

耳かきよも休むるうらな

元寺道門

白雲

兼の縁むらあくる松〜

不卜門

琴風

如も紙をうらやはうすや

中立志門

出紫

飛鳥も尾はむ〜

未立志門 免睡堂

立和

日にやきて、さあつ〜

沾徳門

子葉

蟻のく〜杜、母乃名の恨〜

18

又魚

雲水乃習もい〜人物〜

18

徳純

あつては〜人〜際限なく〜

あつては〜拾物〜

あつては〜上の物



